

新型コロナウイルス感染症と人権

～3つの“感染症”を知り、
差別や偏見をなくそう～



うわさを話をとめるには・・・

小学三年生

前、ちがうクラスの子がうわさを話をしていました。だれのうわさを話していたかというところ、Aさんのうわさを話をしていました。

うわさを言った人は、Aさんが友だちと遊んでいるのを見て、

「またAさん、人、いじめとるやん。」
と言っていました。ぼくは、「Aさんは、遊んでるだけなのに、なんでそんなことを言われやないかんの?」と思って、はらがたちました。

でもぼくは、そのうわさをとめられませんでした。ゆづきが出ませんでした。Aさんはぼくの友だちなのにとめることができませんでした。た。ぼくがうわさをとめなかったら、その人たちは、ちがうところでうわさを話を広めるかも分かります。そうしたらAさんは、もっとつらい思いをすることになります。ぼくはゆづきを出して、

「ちがうよ、遊んでるだけだよ。」
と言えよかったです、ごうかいしました。

道とくの時間にうわさを話のことを考えました。このじゅぎょうのとき、みんなはよの中にいるいろいろなうわさを話の話をきいて、おこつて、

「ぜったいとめる。」

と言っていました。でも先生が、
「本当にとめることができますか?」
と聞くと、

「言えやんかもわからん・・・。」
と言った子がいました。ぼくと同じです。そしてどうしたら言えるか、みんなで考えました。そのときBさんが、

「友だちのことが大事なら、ゆづきがないとか
思う前に、言えると思う。」

と言いました。ぼくはそのとおりやと思いましたが、でもやっぱり一人ではふあんです。そのときCさんが、
「ぼくは、一人では言えやんから、友だちといっしょに言う。」
と言いました。Dさんは、

「あんまりしらん子やから言えやんと思う。ぼくは、まずその子と友だちになってから言う。」
と言っていました。ぼくはこのじゅぎょうのあと、「ぼくと同じ気持ちの子がいっぱいおるんや。一人でむりなら、友だちといっしょに言えばいいんや」と、思いました。

うわさを話をとめるには、まずは本当のことかどうか、たしかめることが大事です。でも本当のことでもいやな気持ちをする人がいるかもわかりません。ぼくは、本人がいらないのに言うのは、いけないと思います。

ぼくはこれからは、うわさを聞いたらぜったいとめます。

人権作文集「人権の芽」第14集より



伊勢市環境生活部
人権政策課

TEL (0596) 21-5545
URL <https://www.city.ise.mie.jp>



表紙：令和元年度人権尊重啓発ポスター小学6年生の部 市長賞

新型コロナウイルス感染症と人権

新型コロナウイルス感染症について、インターネット等で患者個人の特定につながる内容の掲載や誹謗中傷、個人のプライバシーに関する情報の無断掲示、風評被害のおそれがある情報の拡散などの行為が見受けられます。これらの行為は、情報が正確かどうかにかかわらず、人権侵害につながる可能性があります。

また、感染した方やその家族、治療にあっている医療関係者、外国から帰国された方、日本に住んでいる外国人の方等に対して不当な差別、偏見、いじめも人権侵害であり、決して許されるものではありません。

このような誹謗中傷、差別、偏見をなくすために、私たちにできることを考えてみましょう。

新型コロナウイルスがもたらす3つの“感染症”

1. 病気 (体の感染症)

このウイルスは、感染者との接触でうつることがわかっています。感染すると、風邪症状や重症化して肺炎を引き起こすことがあります。

2. 不安・恐れ (心理的感染症)

このウイルスは、目に見えません。また、新しいウイルスであるため分からないことが多く、治療法も確立されていないため、人々は不安な気持ちになります。不安な気持ちは私たちの判断力を弱め、うわさ話や不確かな情報に振りまわされてしまうことがあります。

3. 差別・偏見 (社会的感染症)

人は、ウイルスという目に見えない敵への不安から、ウイルス感染にかかわる人や対象を目に見える敵とみなし、社会から排除してつかの間の安心感を得ようとする傾向があります。

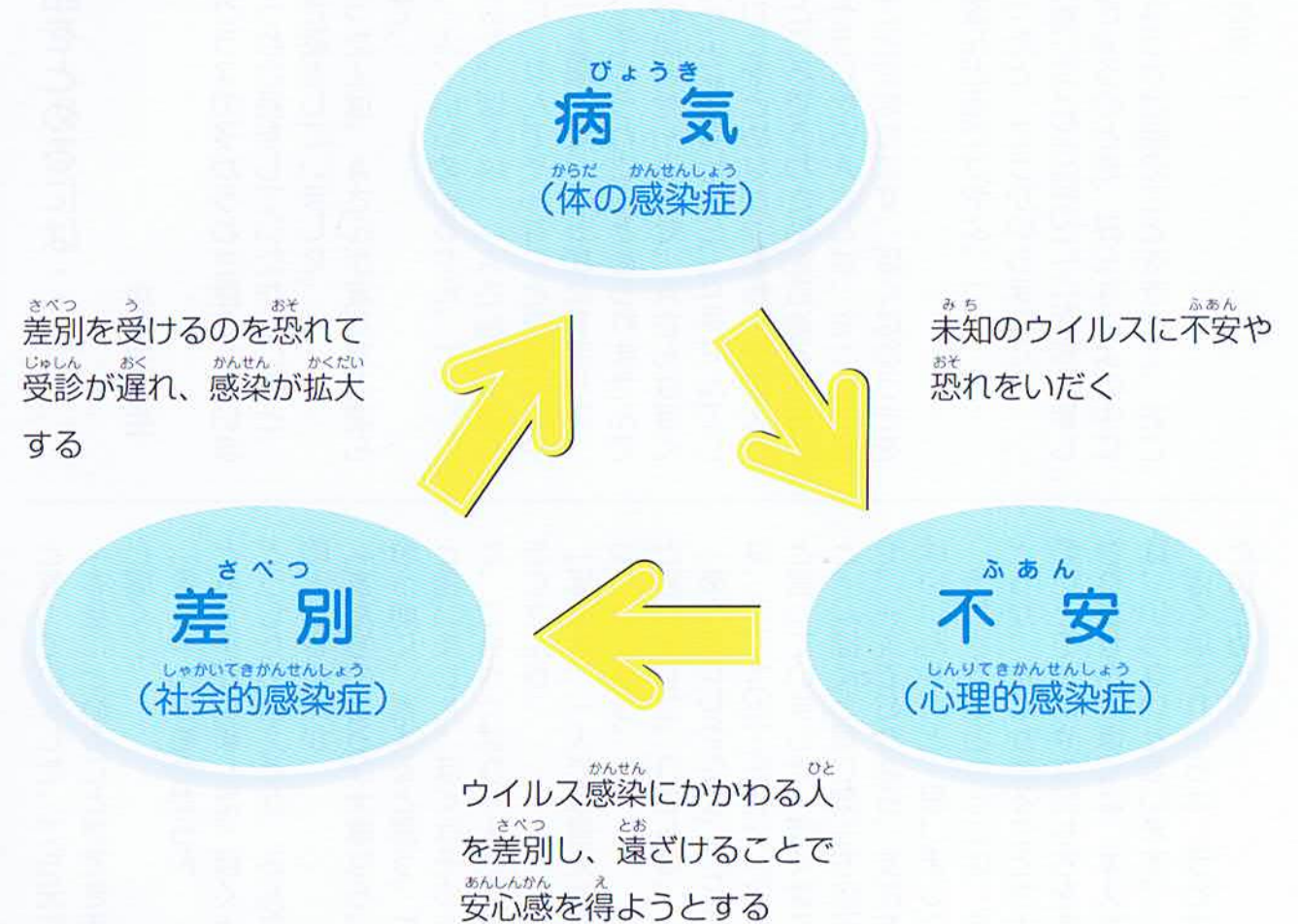
このように特定の人・地域・職業などに対して、「危険」「ばい菌」といったレッテルを貼り遠ざけようとする心理によって差別や偏見が生まれます。

差別・偏見は、人と人との信頼関係や社会の結束を壊し、わたしたちの互いに支え合う力を弱め、社会の危機に立ち向かっていく力も弱めます。



感染症を拡げる負の連鎖

この“感染症”の恐さは、病気が不安を呼び、不安が差別を生み、差別がさらなる病気の拡散につながることで。



わたしたちにできること

- 「手洗い」「咳エチケット」「人混みを避ける」など、感染しない・感染させないための衛生行動を徹底しましょう。
- 不安に振りまわされないために、自分自身を見つめなおし、安全や健康のために必要なことを見極めて選択しましょう。不安な気持ちはそのままにせず、信頼できる人に相談しましょう。
- うわさや思い込みではなく、信頼できる情報をもとに行動することが大切です。また、情報を発信するときには、自身の行動にも責任を持ちましょう。